資料１

令和４年度

第３２軍司令部壕詳細調査の調査結果について

● 調査内容及び目的

① 未発掘区間調査

物理探査（チェーンアレイ探査等）及びボーリング調査を実施し、第１坑口及び第１坑道の位置や坑道内部の状態を把握する。

② 坑道内地質観察

第２、第３、第５坑道を構成する岩盤の状態（地質、風化・劣化状況）を詳細に把握し、安全性を検討する基礎データを収集する。

③ 地下水等調査

第２、第３坑道内及び壕周辺の地下水の水位を計測し、壕周辺の地下水の流動方向を把握する。また、降雨量と壕内湛水の関連性を確認する。

● 調査結果及び収集データの活用

① 未発掘区間調査（資料２～４）

第１坑道を対象として実施した物理探査及びボーリング調査により、第１坑道の位置及び内部の状態を確認することができた。しかし、第１坑口及びシャフトＡを対象として実施した物理探査については、その位置等を特定することができなかった。

② 坑道内地質観察（資料５）

今回収集したデータを元に、今後、岩盤や既存支保工の変位・変状を計測する地点を決定し、定期的な計測を行う。これにより、当面の岩盤崩落の可能性や追加補強の必要性・緊急性等の判断に活用する。また、将来的な保存・公開に当たっては、見学者の安全を確保するための対策検討の基礎資料として活用する。

③ 地下水等調査（資料６）

壕内部を整備・公開するに当たっては、壕内に流入し、一定期間滞留する地下水の排水が必要となることが想定されるため、今回収集したデータを元に、今後、強制的かつ継続的に排水を行った場合の周辺環境（溜め池、湧水、井戸等）への影響を予測するために活用する。また、降雨量との相関性のデータを蓄積することにより、壕内への地下水の流入メカニズムの把握に努めるとともに、排水設備計画の検討に活用する。